



MATERIALS INNOVATION

会社案内 CORPORATE PROFILE

JSR株式会社



MATERIALS INNOVATION

JSRは、精緻を極めた最先端テクノロジーカンパニーとして、
科学の進歩と実用化を推進します。
新たな可能性を見いだすインスピレーションを常に持ち続けること。
無限の可能性を持って世界が必要とする新しい領域に挑戦し続けます。

【JSRの事業領域】

DIGITAL SOLUTIONS
BUSINESS

デジタルソリューション事業

LIFE SCIENCES
BUSINESS

ライフサイエンス事業

PLASTICS
BUSINESS

合成樹脂事業

INDEX

- 01 企業理念
- 03 トップメッセージ
- 05 JSRのビジョン
- 07 サステナビリティに関する取り組み
- 09 数字でみるJSR
- 11 JSRの歴史
- 13 事業紹介
- 19 研究開発の方針と体制
- 21 JSR製品を創り出す現場
- 23 ネットワーク
- 25 会社概要

JSRは明日の社会を考えて、 イノベーションへ挑み続けます。

先端技術を開拓し、 事業構造を変革しています

当社は1957年に合成ゴムの国産化を目指して設立され(旧社名:日本合成ゴム株式会社)、その後、社会ニーズの変化を踏まえて先端技術を開拓し、事業領域を拡大してまいりました。これまで培ってきた技術や人材と、グローバルに広がる社内外の力を結集して、変わり続ける社会ニーズを捉え、当社固有の技術をベースに、事業構造の変革に取り組んでいます。

企業理念に立脚した活動で、 持続可能な社会に貢献します

企業理念「Materials Innovation マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会(人・社会・環境)に貢献します。」に立脚し、マテリアルが生み出す新たな可能性を追求して価値を創造することで、社会に貢献することを目指しています。

社会ニーズの変化に JSRのマテリアルは応え続けます

JSRグループのマテリアルは、半導体、ディスプレイ、家電など、皆さまが日常生活のさまざまな場面で触れている多様な製品を作り出すために使われています。また、デジタルソリューション事業とライフサイエンス事業をコア事業として注力することに加え、さらに深い社会ニーズに応えることを目指して新しい事業領域にも戦略的に取り組んでいきます。グローバルな人間社会の課題を反映したニーズの変化を見つめ、「Materials Innovation」に挑み続けます。

代表取締役CEO 兼 社長

エリック ジョンソン

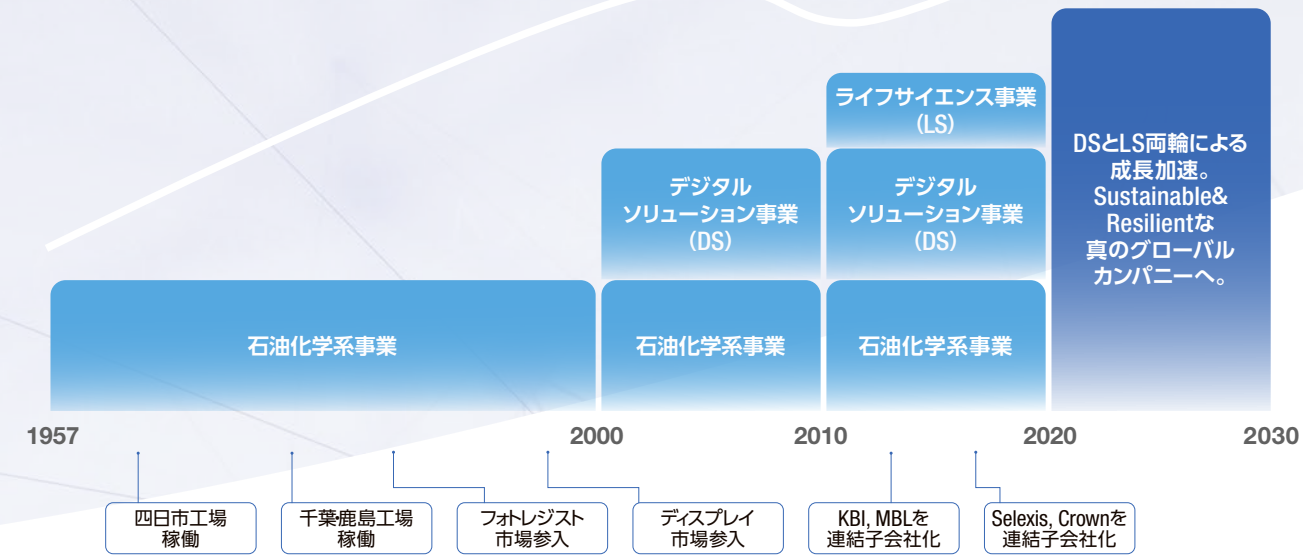


JSRの強みである技術を通じて社会に貢献し、
企業価値の向上に取り組めます。

2024年度に向けた経営方針の概要

当社グループの強みは技術にあり、技術により新たな事業を生み出し、顧客や社会の課題を解決し、より社会を豊かにしていくことが当社グループの存在価値です。そこで、2024年度に向けた経営方針ではこうした強みと親和性のある、デジタルソリューション事業、特に半導体材料事業、およびライフサイエンス事業の戦略に焦点を当てています。

優れた品質と徹底した顧客サポートにより、事業の価値を最大化し、持続的に成長を続け真にグローバルな会社になることを目指しています。環境の変化をチャンスと捉え、事業機会を創出できるよう組織の強靱性を高め、全社で自己資本利益率(ROE)2桁を達成し、過去最高益である600億円をこの2事業で超えることを目指します。



ビジョン

- ☒ サステナブル(持続可能)な成長を目指し、すべてのステークホルダーに価値を創造する
- ☒ あらゆる環境変化に適応するレジリエント(強靱)な組織をつくる

↑ 【事業ポートフォリオ】	↑ 【事業目標】	↑ 【組織体制】
コア事業	ROE	レジリエントな経営地盤
デジタルソリューション事業 (特に半導体材料事業)	10%以上	・イノベーション ・デジタル化 ・ESGコミットメント
ライフサイエンス事業	最高益の更新 コア営業利益 600億円以上	・従業員エンゲージメント

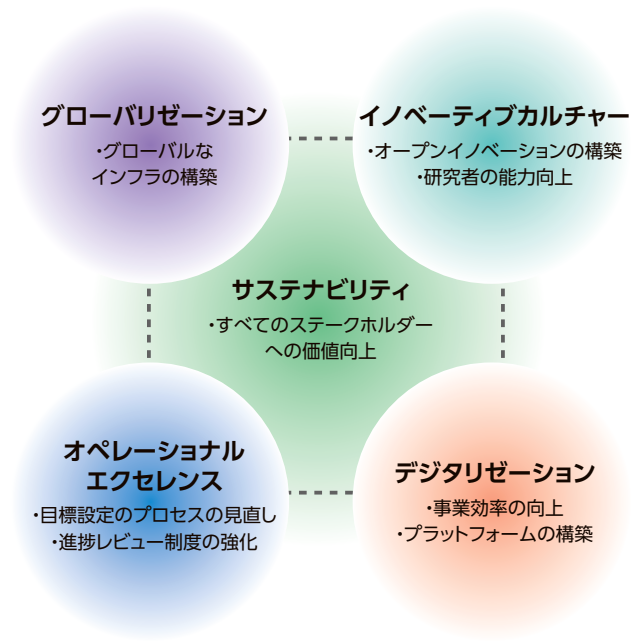
レジリエントな経営基盤

5ファウンデーションズ

世界が複雑化し不確実性が高まる中で、さまざまな環境変化を機会に転換し成長につなげるには、これまで培ったJSRグループの文化風土をより強化し、変化に対応できるよう転換していく必要があります。

サステナビリティに加え、最先端のテクノロジー企業であり続けるためのイノベーションを促進するイノベティブカルチャー、グローバルな変化に対応するための意識・能力・インフラを拡大するグローバル化、デジタル変革(DX)の潮流を取り込んだ業務の効率化を進化させるデジタル化、そしてこれらを統合してオペレーションの革新に結び付けるオペレーショナルエクセレンスが5ファウンデーションズのフレームワークです。これらの取り組みを通じてレジリエント(強靱)な経営基盤を築き、持続的な企業価値の向上を目指します。

5ファウンデーションズ



JSRグループは、すべてのステークホルダーに価値を提供し、共生しつつ成長していくことを目指し、サステナビリティ経営を実践しています。

■JSRグループの重要課題(マテリアリティ)

事業活動 3つの重要課題を推進します

生活の質・幸福への貢献

健康長寿社会への貢献

地球環境保全への貢献

3 気候変動
関連の課題

7 気候変動
関連の課題

9 資源の
有効利用

11 住生活
関連の課題

12 気候変動
関連の課題

13 資源の
有効利用

デジタルソリューション事業

スマート社会のデジタルを支える材料消費電力の抑制

ライフサイエンス事業

医療品の早期開発
開発の成功確率・開発効率向上

合成樹脂事業

自動車の軋み音改善による快適運転
プラスチック資源循環の実現に向けた製品の提供

当社グループは、環境への配慮、社会的課題の解決、ガバナンスへの取り組みが一体となったサステナビリティ経営を実践しています。

サステナビリティ推進活動として、経営上の重要課題(マテリアリティ)をサステナビリティの視点で「事業活動」と「経営基盤」の2つの側面から整理し、取り組みを進めています。重要課題への取り組みは、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の達成にも寄与するものです。

事業活動：3つの重要課題に取り組みます。

当社グループはデジタルソリューション事業、ライフサイエンス事業、合成樹脂事業を展開しています。それぞれの事業活動における製品やサービスの提供を通じて生活の質の向上、健康長寿社会の実現、地球環境の保全に対してさまざまな効果を発揮することで社会に貢献します。

経営基盤：5つの重要課題に取り組みます。

事業活動を支える経営基盤では、「環境保全・負荷低減」「従業員DE&I 働き方」「安全・健康」「人権尊重」「サプライチェーン」の5つにおいて、中長期的な課題を設定しています。この中でも、環境に係る温室効果ガス排出量削減と、社会に係る従業員エンゲージメントの向上については特に重視しており、「2050年GHG排出“実質ネットゼロ”を目指すこと」「従業員のエンゲージメントに影響する因子を解析し、人事制度・働き方改革・ダイバーシティ施策等の取り組みに反映させること」をそれぞれ経営方針に組み込んでいます。

また、コーポレートガバナンスに関しては、経営執行および財務活動に精通した複数の独立社外取締役、および独立社外監査役も含めて当社の取締役会を構成するなど、多様化を図っています。

経営基盤 グループ全体で推進 5つの重要課題

環境保全・負荷低減

従業員 DE&I 働き方

安全・健康

人権尊重

サプライチェーン

7 気候変動
関連の課題

11 住生活
関連の課題

12 気候変動
関連の課題

13 資源の
有効利用

3 気候変動
関連の課題

5 ジェンダー
平等

17 持続可能な
消費と生産

環境保全・負荷低減

グループ一丸となり
2050年GHG^{※1}排出“実質ネットゼロ”へ

従業員 DE&I 働き方

多様性を尊重し、従業員
エンゲージメントの向上を目指す

安全・健康

安全最優先に加え、
心身の健康を良好に保つ

人権尊重

人権についての理解を深め、
正しい行動を

サプライチェーン

健全な調達先から
安定的な調達を継続する

コーポレートガバナンス

※1 GHG：温室効果ガス
※2 DE&I：ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

JSRにまつわるデータをご紹介します。

設立

1957年

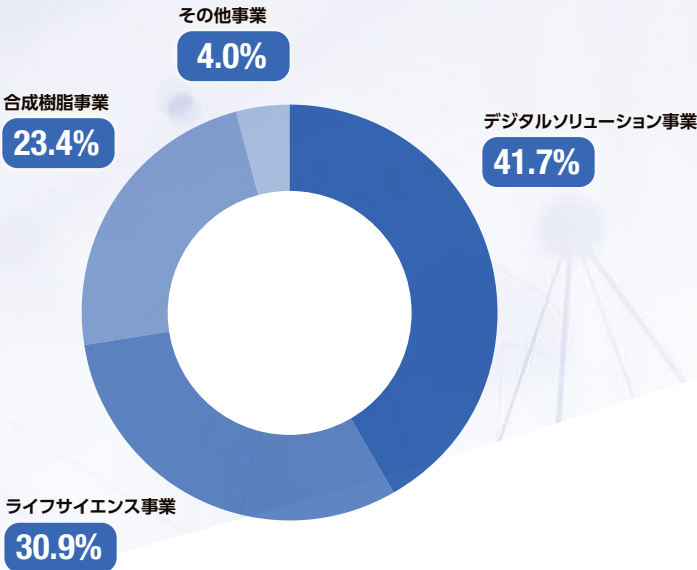
産業振興のために石油化学製品が不可欠だった1957年
合成ゴムの国産化を使命として日本合成ゴム株式会社、
現在のJSR株式会社が誕生しました。



2023年3月期
主要事業売上収益

4,089億円

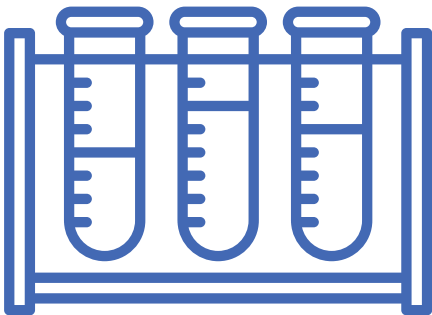
このうち62.2%が
海外での売上収益です。



拠点数 47拠点

※2023年4月1日現在

国内19拠点、海外28拠点において
事業展開を行っています。



研究開発費

270億円

※2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日実績)
※グループ全体、仕入品に係る受託研究費を含む

未来の技術のために研究開発に力を入れています。

従業員数

7,994名

※2023年3月31日時点の連結従業員数

このうち海外拠点で働く従業員数は
4,353名です。



有給取得率

88.8%

※2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日、JSRからの出向者を含む実績)

ワークライフバランスを重視した働き方を
推奨しています。



JSRは人々が求める未来を
創造し続ける挑戦企業です。



1960年代

1970年代

1980年代

1990年代

2000年代

2010年代

2020年代

合成ゴムの国産化に成功

石油ショックを契機に、
省エネ体制と事業の多角化に
いち早く取り組む

情報化時代の幕開けとともに、
電子材料分野へ参入

産業構造の変化に備え、
生産体制の
グローバル化を図る

トップメーカーとの協業、
半導体・ディスプレイ材料の
世界市場でシェア拡大

2020年のありたい姿を目指して、
3段階の中期経営計画をスタート

変化に対応できる、
レジリエントな組織の構築へ

- 1957年 国策会社として設立、
スチレン・ブタジエンゴム (SBR) の国産化に成功
- 1969年 民間会社に完全移行

- 1997年 社名を「日本合成ゴム株式
会社」から「JSR株式会社」
に変更。

- 2022年 エラストマー事業をENEOS株式会社に事業譲渡

石油化学系事業

石油化学系事業

石油化学系事業

デジタル
ソリューション事業 (DS)

ライフサイエンス事業 (LS)

デジタル
ソリューション事業 (DS)

DSとLS両輪による成長加速。
Sustainable&Resilientな
真のグローバルカンパニーへ。

Back Story

1957年、当時の日本は戦後復興期が終わって高度経済成長期が始まり、産業振興のために石油化学製品が不可欠でした。そこで、合成ゴムの国産化を使命として日本合成ゴム株式会社、現在のJSR株式会社が誕生しました。

その後、合成ゴムや合成樹脂など石油化学系分野で培った独自の高分子技術をもとに、半導体材料やディスプレイ材料などデジタルソリューション分野の材料も数多く作り出してきました。
そして、ファイン分野で得た技術も活用し、ライフサイエンス分野にも取り組み、社会の課題に応えるべくJSRのコア事業として注力しています。



半導体材料のグローバルマーケットリーダーとして、
さらなる微細化・高集積化に挑む

半導体材料

半導体製造において回路形成や高密度実装に欠かせないさまざまな高性能材料をラインアップし、世界の最先端半導体メーカーのニーズに応えています。 (※1)



リソグラフィ材料

主な製品 フォトレジスト <g線、i線、KrF、ArF、EUV (化学増幅型、メタルオキシド)>、液浸リソグラフィ用トップコート材料、塗布型ハードマスク(有機、無機)

特徴 半導体製造工程で基板上の電子素子や回路の微細加工に使用され、半導体チップの高性能化、小型化に貢献する。



CMP材料・プロセス材料

主な製品 CMPスラリー、CMP洗浄剤、機能性洗浄剤

特徴 配線層や絶縁層などの薄膜を平坦にする化学的機械的平坦化(CMP)工程で使用されるCMPスラリーおよび、半導体工程にてウエハ上に発生する残留物を除去する洗浄剤等を提供し、多層配線形成に寄与する。



先端実装材料

主な製品 バンプ・再配線めっき用厚膜フォトレジスト、感光性絶縁膜、5G向け高速通信用低伝送損失材料

特徴 高密度化や三次元化が進む半導体製造の実装工程で配線形成やプリント基板に接続する際に使用され、電子デバイスのパッケージシステムの高性能化・高信頼性に寄与する。



ディスプレイ市場や、ICTデバイスの
進化に対応する材料で、世界をリードする

ディスプレイ材料

テレビ、パソコン、スマートフォンに欠かせない液晶ディスプレイ(LCD)や次世代ディスプレイで使われる材料において、高画質化・軽量化・低消費電力化といった市場ニーズに対応する材料を提供しています。(※1)



LCD材料

主な製品 配向膜、有機絶縁膜、着色レジスト、保護膜、感光性スペーサー

特徴 LCDパネルを構成する何枚もの膜およびその中の高機能材料として用いられ、高画質化・低消費電力化といったニーズに寄与する。



OLED材料

主な製品 封止剤、平坦化膜、光取出し材、顔料分散レジスト、低温硬化絶縁膜

特徴 有機ELディスプレイ(OLED)、オンセルタッチセンタを構成する材料として用いられ、高画質化・低消費電力化といったニーズに寄与する。

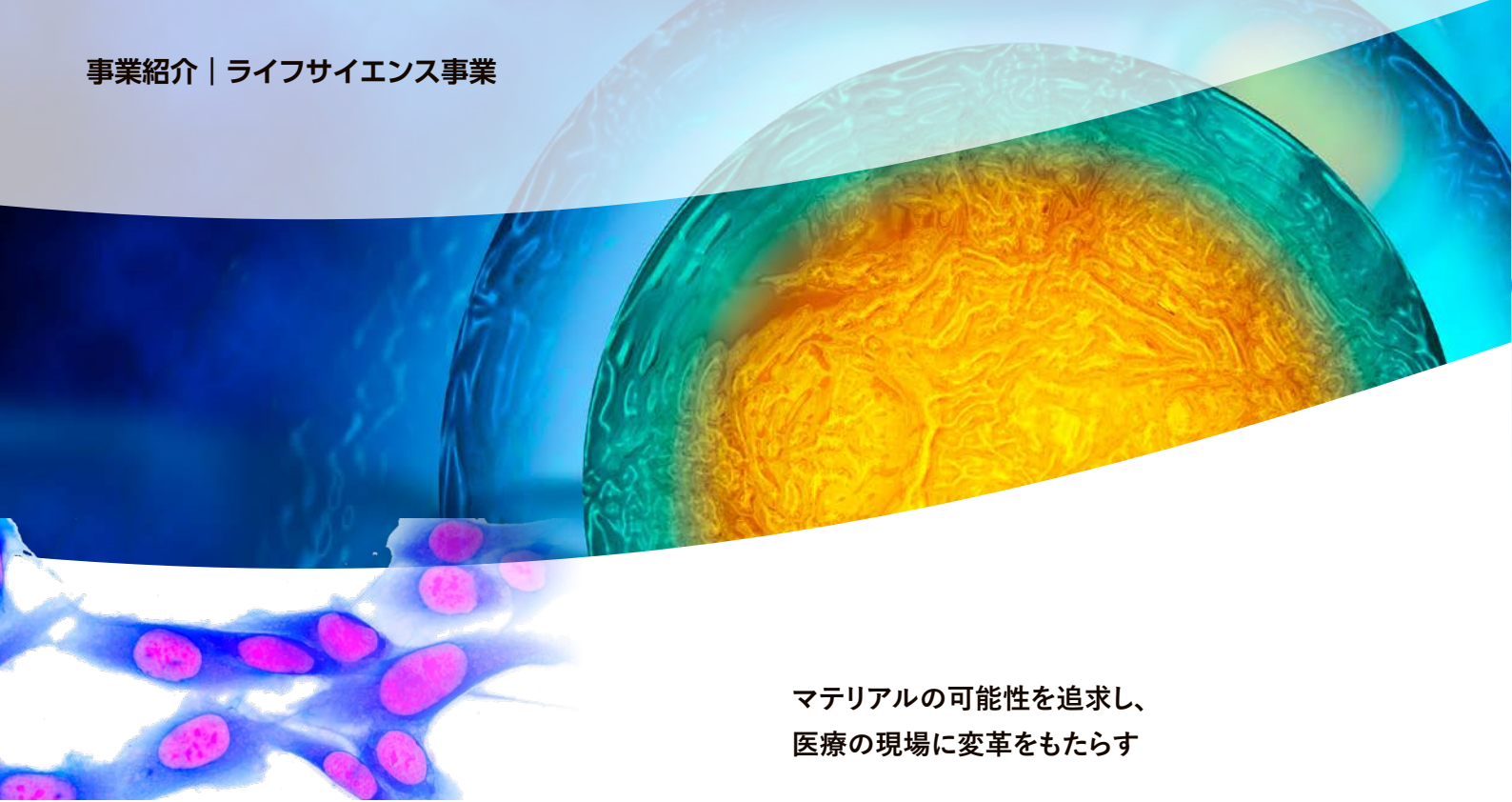


耐熱透明樹脂ARTON®(アートン)

特徴 優れた光学特性、寸法安定性、耐熱性を有する透明な樹脂。ディスプレイの光学補正や自然な色の写真撮像を可能にするカメラモジュール等に適用される。

(※1) 半導体材料事業はJSR Micro, Inc.、JSR Micro N.V.、JSRマイクロ九州株式会社などのグループ企業と連携して事業を運営しています。

(※1) ディスプレイ材料事業はJSR Micro Korea Co., Ltd.、JSR(Shanghai) Co., Ltd.、JSR Micro Taiwan Co., Ltd.などのグループ企業と連携して事業を運営しています。



マテリアルの可能性を追求し、
医療の現場に変革をもたらす



JSRの培った高分子技術を応用し
先端医療に貢献する

創薬支援サービス

これからの医療の大きな課題は、健康寿命を延ばすことと、医療費の膨張を抑えることです。そのためには「個別化医療」「治療から予防へ」という考え方が大切になります。JSRグループは病院や医師、大学などが取り組む「先端診断分野」や、製薬企業などにサービスを提供する「バイオプロセス分野」を中心に事業展開を進めています。

JSRグループの創薬支援サービスでは、CDMO事業（バイオ医薬品の開発・製造受託）とCRO事業（医薬品の開発受託）に取り組み、Crown Bioscience, Inc.、(株)医学生物学研究所、Selexis SA、KBI Biopharma, Inc.などの各グループ企業が一体となり、創薬から製造までの一貫したプロセス支援体制をグローバルで展開しています。これらの一連の創薬支援サービスを提供することで、医薬品の開発成功確率の向上や開発期間短縮に貢献していきます。

バイオプロセス材料
診断・研究試薬材料

抗体医薬などに代表されるバイオ医薬品の効率的な開発・製造と、より高度な疾病診断および予防診断に貢献していきます。



バイオプロセス材料

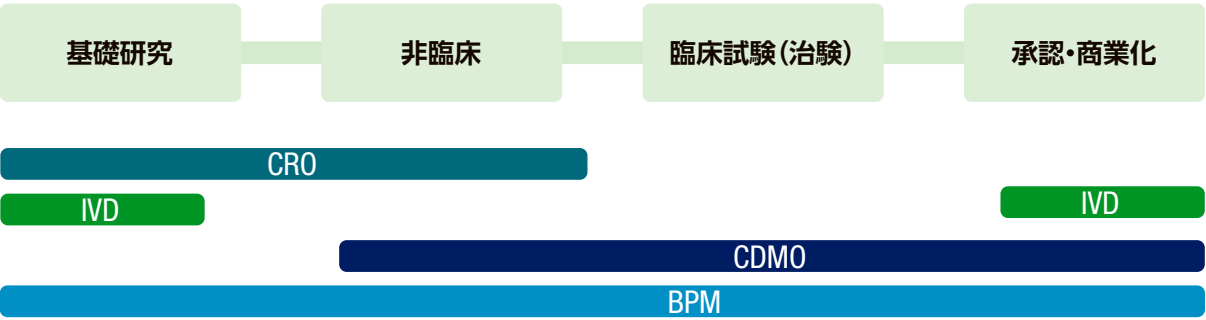
主な製品 プロテインAアフィニティ担体
Amsphere™ A3

特徴 精密なポリマー合成技術、表面修飾技術、遺伝子工学技術を融合させた次世代型アフィニティ担体。バイオ医薬品の製造プロセスの最適化に貢献する。

診断・研究試薬材料

主な製品 磁性粒子、免疫診断試薬用ラテックス粒子、ブロッッキング試薬

特徴 タンパク質、核酸、細胞といった生体材料の単離・精製や、個別化医療の鍵となる疾患診断のための体外診断試薬の材料として用いられ、診断の正確性や効率化に寄与する。



CRO



- トランスレーショナルリサーチを通じて創薬研究開発を支援する非臨床試験受託
- 腫瘍学、がん免疫学、炎症性疾患領域におけるより優れた開発候補化合物の選定を可能とする

IVD



JSR Life Sciences

- 臨床検査、病理・細胞診検査、および基礎研究用試薬の研究・開発・製造・販売
- コンパニオン診断薬の開発受託サービス、創薬支援
- 診断試薬材料の開発・製造・販売

CDMO



- バイオ医薬品に特化した開発・製造受託
- 細胞株構築からプロセス開発、臨床用／商用原薬製造までを一貫して受託

BPM



JSR Life Sciences

- 抗体医薬精製用プロテインA担体「Amsphere™ A3」を含むバイオ医薬品製造におけるプロセス材料の開発・製造・販売



柔軟な製品設計の技術によって
生み出された、ユニークな特徴を持つ合成樹脂

ABS他

JSRグループのABS樹脂を中心とした製品は、多様なニーズに柔軟に対応する技術力により生み出され、複数の特性を組み合わせたユニークな特徴を持っています。無塗装での外観の良さを発揮する樹脂や二次加工性の高い製品の開発など、樹脂製品の開発と部品設計の支援に取り組んでおり、世界中のユーザーに高く安定した品質、付加価値の高い製品を提供しています。(※1)



一般、特殊、耐候性ABS系樹脂

- 主な製品** 耐熱グレード、耐候性グレード
- 特徴** 高い実用耐性、耐衝撃性、加工性、耐候性を活かし、自動車部品や電気器具、建材部品に用いられる。



さしみ音対策材HUSHLLOY®

- 特徴** 部品が擦れ合うことで発生する不快なさしみ音を防ぎ、さしみ音対策の効果の永続と部品コストの削減に貢献する。主にカーナビパネル、カップホルダー等に用いられる。



めっき用材料PLATZON®

- 特徴** めっきの密着強度に優れ、極めて広い生産条件に対応可能で、生産性向上、歩留まり改善に貢献する。主にステアリングホイール等自動車内装のめっき加飾部品等に用いられる。



高発色性材料VIVILLOY®

- 特徴** 無塗装でありながら塗装に近い深みや鮮やかさを再現し、塗装工程省略およびトータルコストダウン、環境負荷低減に貢献する。主にラジエーターグリル等自動車外装部品等に用いられる。



次の“未来”を実現していく
JSRグループの製品

その他事業



ホルター心電計Heartnote®

- 特徴** 胸部に貼るだけで日常生活に支障なく最大7日間連続で心電測定が可能となり、従来の検査(24時間測定)では捉えにくい発作性心房細動*などの検出頻度を上げることを可能にする。
*脳梗塞の起因となる不整脈



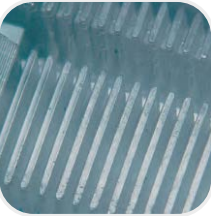
高機能アクリルエマルジョン

- 特徴** ポリマー構造を制御することで弱粘着から中強粘着まで幅広い粘着性能を実現し、マスキングテープ等の粘着剤に用いられる。また、非常に軟らかい連続気泡発泡体を形成することができ、自動車用吸音材や家庭用マットのすべり止めにも用いられる。



PP*用接着剤MIGHTY LOCK®

- 特徴** 難接着基材であるPPに対して前処理を必要とせず、高い接着力を発現することで、PPと各種樹脂の異種材接合工程の省力化に貢献する。主に自動車PP樹脂部品の接着に用いられる。
*ポリプロピレン樹脂



光造形システム

- 主な製品** 工業用3Dプリンター、紫外線硬化樹脂
- 特徴** 3次元CADデータで設計した立体像をスライスデータに変換し、このデータに基づきレーザーで一層ごとに光造形用樹脂を硬化させていく積層造形により、美しく高精度な造形を可能にする。

(※1) 合成樹脂事業はテクノUMG株式会社などのグループ企業と連携して事業を運営しています。

JSRは、社会課題へのソリューションを提供するために 先進技術への挑戦を続けます。

JSRグループは、コア技術である高分子技術および精密製造技術の深耕とともに、光化学・無機化学・精密加工技術・バイオテクノロジーといった異分野技術との融合を通して技術領域を拡大しながら研究開発活動を進めてまいりました。

また分析・評価技術の深掘りをはじめ、原理原則の理解・追及も重視しております。

こうした研究開発活動の積み重ねが世界の化学会社の中でも独自の強みとなり、優位性のある技術・素材をグローバルに展開する原動力になっています。

JSRグループでは、デジタル革命を起点とする変動や脱炭素社会・個別化医療・健康長寿への関心の高まりなど、急速に変化する社会ニーズに備えるべく、研究開発活動を進めています。研究部門のミッションは、現在展開している事業領域とその周辺分野における新規・応用研究などの「事業支援開発」と将来大きな成長が見込まれるシーズ研究などの「次世代技術研究」の大きく2つに分かれます。

事業支援開発推進に当たっては、市場開発からプロセス開発、製造技術開発、さらには製造、販売、物流といったグループ内のバリューチェーンとの連携を重視しています。研究者自身がニーズを掘り下げるため顧客との直接対話を重視するなど、研究開発活動と事業の一体化を推進するとともに、各国での技術サービスを充実させ、顧客の事業推進をグローバルかつタイムリーに支援できる体制を構築しています。

シーズ研究などの次世代技術研究については、RDテクノロジー・デジタル変革センターを中心にコンピュータ技術、データサイエンスの応用による研究開発業務全般の加速、新規事業創出に向けた高度な機能・特性を有する革新的材料の開発研究、JSR・東京大学協創拠点CURIEにおけるJSR製品開発の理論的な理解の探索を進めています。また、国内外の大学や研究機関との共同研究などのオープンイノベーションを推進しており、ライフサイエンス分野のJSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター (JKiC) では、医学的見地と素材開発の知見を融合させて、さまざまな研究領域に取り組んでいます。さらに、神奈川県川崎市の殿町国際戦略拠点 キング スカイフロントにJSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD) を設立し、次世代医療およびマテリアルズ・インフォマティクスを軸としたオープンイノベーション拠点として、安全安心で豊かなデジタル社会、低環境負荷で持続可能な社会に貢献していくことを目指し、未来に向けた価値の創出に取り組んでいます。



JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)



精密電子開発センター



JSRは品質意識を高くもち、 優れた製品を世の中に送り出します。

独自の高分子技術と精密製造技術は、JSRグループの強みであり、
新製品の開発から製造までのそれぞれの現場で新たな可能性に挑み続けて手にした財産です。
JSRグループは技術面の強みだけでなく、お客様へ品質の良い製品を提供し続けるため、
研究開発から製造に至る各部門で品質管理を徹底して信頼性を高めています。

生産技術／プロセス開発

すべての事業領域において不可欠な高度な技術。

生産技術部門では、研究者が開発した新しいマテリアルを実験室からプラントの製造設備へスケールアップして商業生産ステージへ進めています。

その際、機能・性能の発現だけでなく、安全かつシンプルなプロセスでいかに製造コストを抑えることができるかが重要です。実験室で生まれた素晴らしい性能を持つマテリアルも安定的に経済的に生産できなければ市場では受け入れられません。実験室では問題なかったことが、商業生産スケールではうまくいかないことも多々あります。

技術・性能の優位性を高めるだけでなく、安定した製品性能の発現と収益性を両立させることが、競争力につながります。研究開発の成果に、最適な生産プロセスと最適な設備設計を組み合わせることで、開発された新しいマテリアルのビジネスチャンスを実際に獲得していきます。



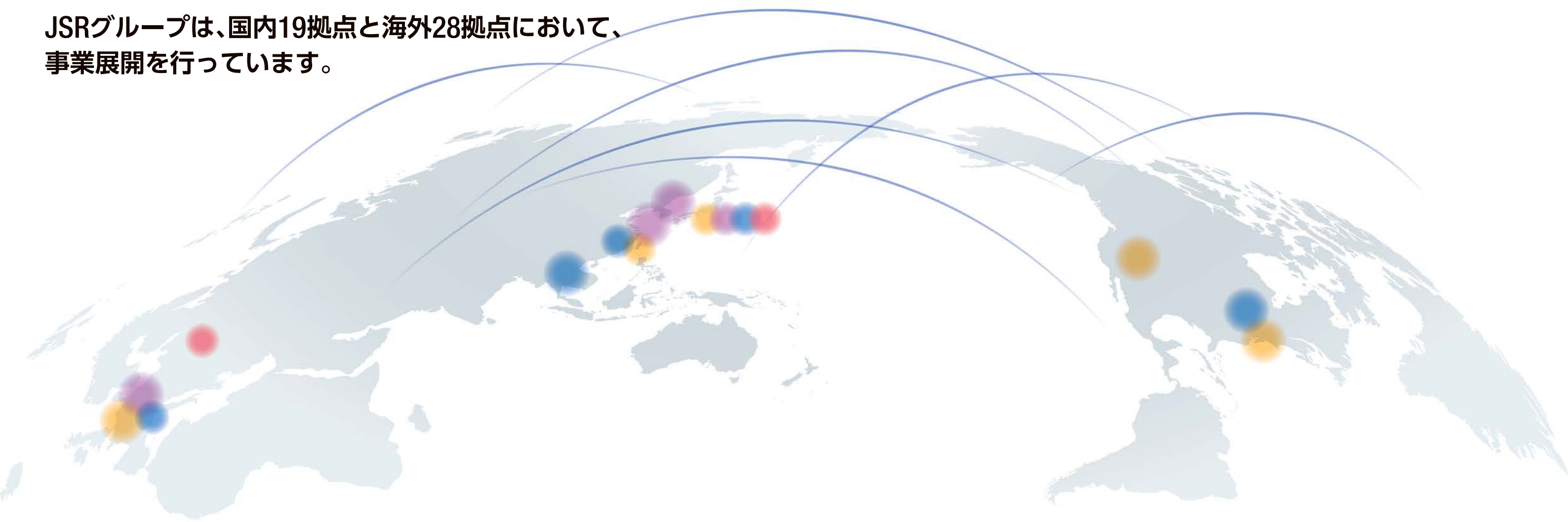
製造

安全・環境に配慮した工場で高い品質を確保。

開発された新しいマテリアルを安定的に供給していくことが責務です。JSRグループは、国内および世界各地で顧客ニーズに応える生産活動を行っています。製造現場では、安全・環境・品質を高いレベルで実現できるよう日々の活動を積み重ねながら、工場の安全安定操業に努めています。レスポンスブル・ケア活動として、積極的に安全・健康・環境対策を実行し、継続的に改善を図っていく自主管理活動も進めています。製造技術センターでは、日々の生産活動の中で発生する課題を見つけ出し解決を図ることで、さらなる製造技術の向上に取り組んでいます。また、JSRの全工場では、ISO9001・14001（品質・環境マネジメントシステム）の認証を取得し、製品の安定供給と生産活動の継続的な改善に努めています。



JSRグループは、国内19拠点と海外28拠点において、事業展開を行っています。



●デジタルソリューション事業

- JSR(株)本社
- JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)
- JSR Micro N.V.
- JSR North America Holdings, Inc.
- JSR(株) 四日市工場および四日市研究センター
- (株) イーテック
- (株) ディーメック
- JSR ARTON製造株式会社
- JSRマイクロ九州(株)
- JSR Electronic Materials Singapore Pte. Ltd.
- JSR Electronic Materials (Shanghai) Co., Ltd.
- Inpria Corporation
- JSR Electronic Materials Taiwan
- EUV Resist Manufacturing & Qualification Center N.V.
- JSR Micro Korea Co., Ltd.
- JSR Electronic Materials Korea Co., Ltd.
- JSR (Shanghai) Co., Ltd.
- JSR Micro (Changshu) Co., Ltd.
- JSR Micro Taiwan Co., Ltd.
- JSR Micro, Inc.

●ライフサイエンス事業

- JSR(株)本社
- JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)
- JSR Micro N.V.
- JSR North America Holdings, Inc.
- JSR(株) 筑波事業所および筑波研究所
- JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター (JKiC)
- JSRライフサイエンス(株)
- (株) 医学生物学研究所
- (株) Crown Bioscience & MBL
- KBI Biopharma BVBA
- Selexis SA
- KBI Biopharma, SA
- MBL Beijing Biotech Co., Ltd.
- MBL Shenzhen Biotech Co., Ltd.
- KBI Biopharma, Inc.
- MBL International Corporation
- Crown Bioscience International
- JSR Life Sciences, LLC

●合成樹脂事業

- 日本カラリング(株)
- テクノUMG(株)
- Techno-UMG Europe GmbH
- Techno-UMG Shanghai Co., Ltd.
- Techno-UMG Guangzhou Co., Ltd.
- Techno-UMG Hong Kong Co., Ltd.
- Techno-UMG ASIA Co., Ltd.
- Techno-UMG America, Inc.

●その他事業

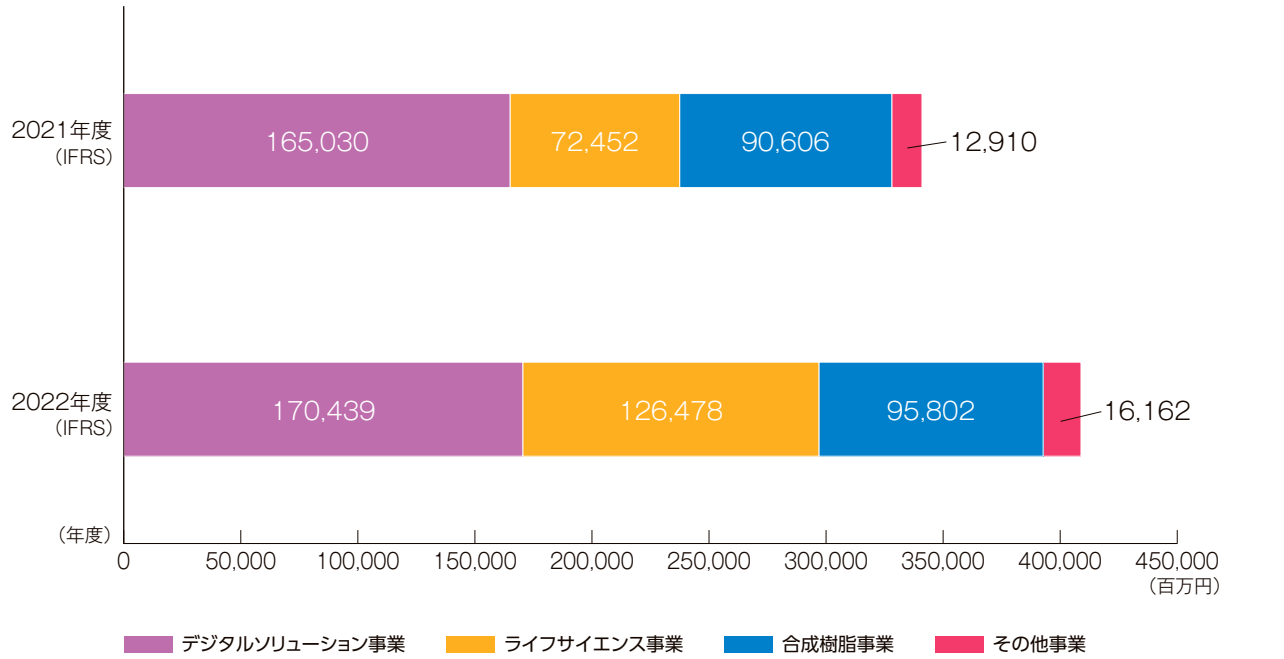
- JSR(株)本社
- JSRビジネスサービス(株)
- JNシステムパートナーズ(株)
- JSRロジスティクス&カスタマーセンター(株)
- ジェイトランス(株)
- JSR Active Innovation Fund 合同会社

■ 設立年月日	1957年(昭和32年)12月10日
■ 資本金	23,370百万円
■ 連結従業員数	7,994名 2023年3月31日現在

■ 役員

代表取締役CEO 兼 社長	社外取締役	常務執行役員	上席執行役員	執行役員
エリック ジョンソン	関 忠行	原 弘一	山脇 一公	藤井 安文
	デイビッド ロバート ヘイル	土居 誠	山近 幹雄	吉本 豊
代表取締役常務執行役員	岩崎 真人	高橋 成治	ティム ローリー	徳久 博昭
原 弘一	牛田 一雄		脇山 恵介	ハッシュ パクバズ
			立花 市子	江本 賢一
			木村 徹	島 基之
取締役	常勤監査役			山本 健太郎
高橋 成治	岩渕 知明			アーミン スプラ
立花 市子				ジェフリー モウリー
江本 賢一	社外監査役			
	甲斐 順子			
	徳弘 高明			

■ 事業別売上収益の推移



JSR株式会社

本社

東京都港区東新橋1-9-2 〒105-8640
汐留住友ビル
Tel : 03-6218-3500(代表)
Fax : 03-6218-3682(代表)

筑波事業所

茨城県つくば市御幸が丘25 〒305-0841
Tel : 029-856-1001
Fax : 029-856-1003

四日市工場

三重県四日市市川尻町100 〒510-8552
Tel : 059-345-8000
Fax : 059-345-8111

精密電子開発センター

ディスプレイソリューション開発センター

エッジデバイス開発室

三重県四日市市川尻町100 〒510-8552
Tel : 059-345-8084
Fax : 059-345-8118

筑波研究所

茨城県つくば市御幸が丘25 〒305-0841
Tel : 029-856-1001
Fax : 029-856-1003

JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター (JKiC)

東京都新宿区信濃町35 〒160-8582
Tel : 03-6274-8602
Fax : 03-6274-8649

JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)

神奈川県川崎市川崎区殿町3-103-9 〒210-0821
Tel : 044-874-1930
Fax : 044-299-2150

<https://www.jsr.co.jp/>

